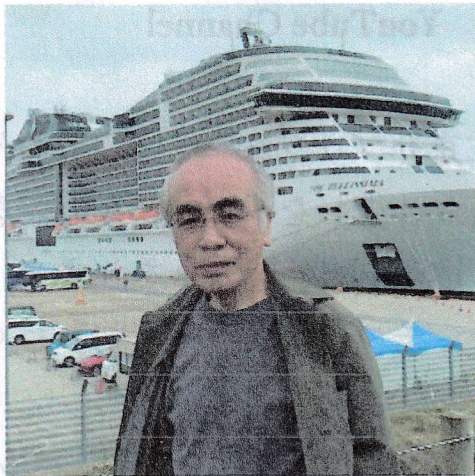


『令和6年能登半島地震』



金沢港で過去最大となるスイスの巨大クルーズ船ベリッシマ号
が乗客約4000人を乗せ入港した際の記念写真です。

令和6年3月吉日

「久仁京介かこむ会」

筆頭副会長 白根幹夫

悪夢のような年明けに言葉もありません。

1年で最も厳粛で楽しく、にぎやかに過ごせるはずの日が「グアッ」「グアッ」という携帯電話のアラートと共に激しい揺れに始まりました。1月1日午後4時10分頃です。石川県で初めて震度7、津波1、2メートルを観測しました。数千年に一度という大地震にひとたまりもなく奥能登を中心に甚大な被害をもたらしました。

地震の恐怖は、3か月近くたってもよみがえります。奥能登半島それぞれに被害は違えども、その大きさは言葉に言い尽くせません。いつになったら元に戻せるのか？戻れるのか？
たくさんの方が家が失われ仕事も失われた。

半島の脆弱なインフラ、アクセスの悪さ、高齢化と過疎化が進む弊害等々、地方の泣き所が集積し、救援が難航しています。

私の住んでいる金沢市で震度5強の揺れが2度、3度と観測し、場所によって建物の倒壊、停電、断水もありました。

私自身、恐怖はありましたが少々の被害だけで能登の方々のことを思うと感謝せねばと思います。

「久仁京介かこむ会」の久仁京介先生、会員の方々からも地震見舞いの電話、メール等を頂きありがとうございました。